



PUBLIC (公開)

SAP Business Intelligence Suite

ドキュメントバージョン: 4.3 Support Package 4 – 2023-12-07

SAP Business Intelligence Suite リリースの制限

目次








1	このドキュメントについて.....	3
2	SAP BI 4.3 の非推奨機能.....	4
3	既知の問題.....	5
3.1	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム.....	5
3.2	データアクセス.....	10
3.3	SAP BusinessObjects Web Intelligence.....	10
3.4	インフォメーションデザインツール.....	12
3.5	SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP.....	13
3.6	SAP Crystal Reports 2020.....	14
3.7	SAP Crystal Reports Viewer 2020.....	14
3.8	SAP Crystal Reports for Enterprise.....	15
3.9	Microsoft SharePoint ソフトウェア統合オプション.....	15
4	制限.....	17
4.1	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム.....	17
4.2	SAP BusinessObjects Live Office.....	22
4.3	SAP BusinessObjects BI プラットフォーム SDK.....	23
4.4	データアクセス.....	24
4.5	SAP BusinessObjects Web Intelligence.....	24
4.6	インフォメーションデザインツール.....	28
4.7	SAP BusinessObjects Mobile サーバ.....	30
4.8	SAP Crystal Reports 2020.....	31
4.9	SAP Crystal Reports for Enterprise.....	32
4.10	Microsoft SharePoint ソフトウェア統合オプション.....	32

1 このドキュメントについて

このドキュメントには、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 SP4 に存在する既知の問題と設計上の制約について重要な情報が含まれています。このソフトウェアをインストールする前に、ドキュメント全体を読むことをお勧めします。このリリースの詳細については、<http://help.sap.com/bobip> を参照してください。

2 SAP BI 4.3 の非推奨機能

以下の機能は、SAP BI 4.3 で非推奨となっています。

- 従来の BI ラウンチパッド
SAP BI 4.3 では、従来の BI ラウンチパッドは Fiorified BI ラウンチパッドに置き換えられます。
- Desktop Intelligence Compatibility Pack
- ディスカッション
- Crystal Reports Java Applet ビューア
- Linux および UNIX の Crystal Reports 2020 サービス (SAP BI 4.3 SP2 以降)
詳細については、SAP ノート [3109523](#)  を参照してください。
- PeopleSoft、JD Edward、Siebel、Oracle EBS 認証 (メンテナンスのみ)
詳細については、SAP ノート [2776738](#)  を参照してください。
- レポート変換ツール
詳細については、SAP ノート [2801797](#)  を参照してください。
- SAP BusinessObjects BI ウィジェット
詳細については、SAP ノート [2837139](#)  を参照してください。
- SAP BusinessObjects Explorer
詳細については、SAP ノート [2824537](#)  を参照してください。
- SAP Crystal Dashboards および Presentation Design
詳細については、SAP ノート [2739919](#)  を参照してください。
- アップグレードマネージャ
- アップグレードマネジメントツール
詳細については、SAP ノート [3111212](#)  を参照してください。

3 既知の問題


3.1 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム

4.2 SP04 より前の BI バージョンからの 4.3 SP02 へのアップグレード



4.2 SP04 より前のバージョンから SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.3 SP02 にアップグレードすると、以下のエラーが表示されます。"リモート CMS に接続できないか、ログオン認証情報が間違っています。INS00013"

詳細については、SAP ノート [3125729](#)  を参照してください。

APS ログの SAPJCE エラー情報

SAPJCE 関連情報が APS ログにエラーとして出力されます。詳細については、SAP ノート [3125648](#)  を参照してください。

Web サービス

- WebSphere Application Server V9 が SUSE Linux Enterprise Server 12 SP02 上でデプロイされている場合、WebSphere Application Server V9 上で dswebobje.war をデプロイすると、Web サービスにアクセスできません。詳細については、[2738703](#)  を参照してください。
- BI プラットフォームが AIX 上にインストールされている場合、WebSphere V9 アプリケーションサーバでの dswebobje Web アプリケーションのデプロイメントが失敗します。詳細については、[2753212](#)  を参照してください。

Business Intelligence ラウンチパッド

これまでは、[最近の実行] から [最近の実行をすべて表示] オプションを選択すると、[すべての最近の実行] ページにリダイレクトされていました。このページには、最近実行されたドキュメントの一覧ビューをタイルビューに変換するオプションが含まれていました。

今後は、[最近の実行をすべて表示] オプションから [インスタンスをスケジュール] ページにリダイレクトされるようになります。このページでは、タイルビューオプションは提供されません。

セントラル管理コンソール (CMC)

CMC は WebLogic サーバではサポートされません。CMC をデプロイするには、サポートされている別のアプリケーションサーバを使用する必要があります。

購読者が通知に追加されると、Safari がクラッシュする

[購読者の管理] ページで通知に購読者を追加すると、Safari がクラッシュします。詳細および関連する回避策については、[2206133](#) を参照してください。

BI 管理者の Cockpit

- 使用回数は、監査 DB で利用可能な表示イベントを示します。各種アプリケーションは表示イベントについて監査 DB に異なる方法で書き込むため、各種アプリケーションで使用回数に不整合がある可能性があります。たとえば、Web Intelligence の場合、表示イベントは表示とスケジュールの両方に対して生成されます。これに対し Crystal Reports では、表示イベントは表示に対してのみ生成され、スケジュールには生成されません。
- 大きいリポジトリを使用している場合、パフォーマンスの問題が発生することがあります。大きなリポジトリの調整の詳細については、[SAP BusinessObjects BI サイズ設定ガイド](#) を参照してください。
- BI Administrators の Cockpit で、[製品ロケール] および [優先表示ロケール] の変更後に、以下の一覧に示すデータが翻訳されなくなります。

サーバ

- サーバのタイプ
- サーバのステータス: 実行中/失敗/停止
- サーバの状態

ドキュメント最終インスタンス

- ステータス
- タイプ

コンテンツの使用

- アクティブおよび非アクティブなコンテンツ
- コンテンツタイプ

- BOE Web アプリケーションサーバ (たとえば、Tomcat) および WACS が異なるドメインにデプロイされている場合、BI Administrators の Cockpit が動作しないことがあります。
- Mozilla Firefox では、BI Administrators の Cockpit にエラーメッセージ「すべてのダッシュボードのネットワークエラーが発生しました」が表示されます。このエラーは、WACS サーバに対して CMC で信頼できる認証を有効化し、Web アプリケーションサーバで相互認証を有効化した場合に発生します (例: Tomcat)。


OpenDocument

OpenDocument リンクを使用してドキュメントを開いたときに、セッションが期限切れ間近である場合、セッションタイムアウトの警告メッセージが DHTML ダイアログボックスに表示されます。

プロモーション管理

- 出力先システムで削除されているフォルダやレポートなどの InfoObject を昇格しようとする、エラーが発生します。ごみ箱から InfoObject を空にして、この問題を回避します。
- SIA または Web アプリケーションサーバで SSL が有効になっている場合、プロモーション管理ツールは BI 4.2 SP4 より前のバージョンには接続できません。


① 注記

プロモーションマネジメントツールを使用するには、BI 4.2 SP4 より前のバージョンにパッチをインストールするか、SSL を無効にします。パッチインストールの詳細については、[2413907](#)  を参照してください。

モニタリング

- Derby データベースに対する Connection Server のサポートが SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.2 で廃止されているため、'MonitoringTrend Data-Sample' Web Intelligence ドキュメントを最新表示にできません。そのため、Derby に基づくすべてのユニバースおよび Web Intelligence ドキュメントが機能しません。レポートを行う場合は、モニタリングデータの保存がサポートされている別のデータベースを選択してください。

① 注記

サポート対象データベースの一覧については、[SAP Product Availability Matrix \(PAM\)](#)  を参照してください。

- スナップショット機能は、新しい監視ソリューションでは使用できません。
- グループ化またはグループ解除の機能は、新しい監視ソリューションでは使用できません。
- [監視ステータス] および [監視の詳細] のペインでのステータスの不整合。
- [監視の詳細] ペインに、データが不明である誘導されたメトリクスに対して **999** が表示されます。
- 監視を削除しても、[アラート] ページでそれに対応する監視が削除されません。
- Adobe Flash ベースの [モニタリング] アプリケーションが BI プラットフォームから削除されます。
- [モニタリング] アプリケーションのフィールド [メトリクス名]、[監視名]、および [ブール式] では、特殊文字がサポートされません。
- [監視の編集] ページで、[履歴] トグルボタンに切り替え、終了日付を現在日付より早い任意の日付に変更すると、終了日付が現在日付に戻ることがあります。
- デフォルト言語を英語でない言語に設定しておくと、監視またはメトリクスを登録中にエラーが表示されることがあります。

- 英語でない言語では監視ステータスが正しく表示されません。

BI Commentary

- ドキュメントをコピーして貼り付ける場合、そのドキュメントのコメントはコピーされません。
- Solaris では、`ddl_tran` を 'true' に設定して、非マスターデータベースで BI Commentary を使用できるようにする必要があります。
- Solaris マシンにおいて、SQL Anywhere データベースで BI Commentary を設定し、Web Intelligence ドキュメントで BI Commentary を使用すると、Connection Server が再起動されます。
回避策: SQL Anywhere ODBC ドライバをドライバマネージャとして直接使用するには (Unix ODBC ドライバなし)、ODBC ドライバマネージャ要求が SQL Anywhere ODBC ドライバにルーティングされるようにシンボリックリンクを作成する必要があります。lib64 サブディレクトリから以下のコマンドを実行します。
 - `/usr/u/acuser/BusinessObjects42/sqlanywhere/lib64`
`ln -s libdbodbc16.so libodbc.so`
`ln -s libdbodbc16.so.1 libodbc.so.1`
 - Connection Server を再起動します。
- コメントのクリーンアップは、BI Commentary データベースにすぐには反映されません。

トランスレーションマネジメントツール (TMT)

Crystal Report for Enterprise ドキュメントファイルのインポートに失敗します。次に示すエラーが返されます。

```
com.crystaldecisions.sdk.occa.report.lib.ReportSDKException
```

ワークフローアシスタント

- プロモーション管理でのジョブ作成の一部としてシナリオが選択されている場合に、[依存関係の管理] をクリックすると、ライブからライブまたはライブから BIAR のケースの両方で内部サーバエラーが発生します。
- プロモーション管理ツールを使用して、シナリオ、ワークフローテンプレート、システムなどのワークフローアシスタントアーティファクトを昇格することができます。ただし、機能は出力先マシンではサポートされていません。

JD Edwards EnterpriseOne 認証

管理者が JD Edwards EnterpriseOne 認証を設定した後、JD Edwards EnterpriseOne ユーザは CMC にログインできません。

WACS の SSL の設定

WACS の SSL を設定する場合、キーストアとキーのパスワードは同じにする必要があります。



→ ヒント

Tomcat アプリケーションサーバを使用すると、キーストアとキーに異なるパスワードを設定できます。


ONE Installer

ONE Installer の更新のシナリオにおいて、[\[言語パッケージの選択\]](#) ウィンドウでの新しい言語の選択が有効になりません。追加の言語をインストールするには、インストール後の [\[変更\]](#) オプションを呼び出し、インストールする追加の言語を選択します。

LDAP プラグイン

- CMC で LDAP プラグインを更新すると、エラーが生成されます。セキュリティプラグインが *SiteMinder* エージェント名の検証に失敗しました。または *SiteMinder* エージェントがシークレットを共有しました。Microsoft VC 再頒布可能ライブラリを必ず更新します。詳細と回避策については、[SAP ノート 2741826](#)  を参照してください。
- Linux デプロイメントでは、BI サーバは LDAP 認証で中に TLS 1.0 プロトコルを使用して LDAP サーバと通信します。TLS 1.1 および 1.2 プロトコルを使用して LDAP サーバが設定されている場合、サーバ間の通信が失敗します。詳細と回避策については、[SAP ノート 2623529](#)  を参照してください。

MySQL 8.0

MySQL 8.0 は SAP BI 4.2 SP7 で CMS および監査データベースとしてサポートされています。しかし、MySQL 8.0 をインストールするとき、[\[強いパスワード暗号化を認証に使用\]](#) 方法を使用すると、エラーが発生します。"認証プラグイン 'caching_sha2_password' をロードできません。"詳細と回避策については、[SAP ノート 2733936](#)  を参照してください。

テーマデザイナー

テーマデザイナーは、特に BI ラウンチパッドをカスタマイズするために開発されました。ただし、テーマデザイナーで公開されている一部のプロパティは、Web Intelligence などのユーザ定義テーマをサポートしない他の Web アプリケーションにも影響を及ぼし、UI が不安定になる可能性があります。カスタマイズが他のアプリケーションに及ぼす影響が限定的であることを確認してください。

3.2 データアクセス

Simba ODBC ネットワークレイヤ、Bigdata ODBC コネクタは、Suse12 および Redhat 7 プラットフォーム上では動作しない

Simba ODBC ネットワークレイヤ、Bigdata ODBC コネクタは、Suse12 および Redhat 7 プラットフォーム上では動作しません。これは、Simba ドライバがサポートされておらず、以下のコネクタとの互換性がないためです。

- Amazon Redshift
- Apache Spark 1.0
- salesforce.com

分散環境の Linux で Unix ODBC 2.3 ドライバマネージャを使用する MS SQL Server で Connection Server がクラッシュする

分散環境の Linux で Unix ODBC 2.3 ドライバマネージャを使用している SQL Server ドライバを使用すると、Connection Server がクラッシュします。

3.3 SAP BusinessObjects Web Intelligence

データモード

- ドキュメントに複数のクエリが含まれている場合、4.3 SP3 よりも、データモードからデザインモードへの切り替えに時間がかかります。
- カスタム順序は、変換が適用されるオブジェクトには適用されません。
- 統合キューブでキーとして使用されるオブジェクトを非表示にしても、結果のキューブには影響しません。
- クエリを削除すると、このクエリに依存する統合キューブは編集できなくなります。
- 統合キューブに基づく動的受信者は、パブリケーションでは考慮されません。
- データモードでクエリを非表示にした後も、地理サブオブジェクト (Later、Long、Name) は AOT に表示されます。
- データモードで作成された仮想キューブに地理ディメンションまたは時間ディメンションを作成することはできません。
- ドキュメントに非表示のオブジェクトが含まれている場合、別のドキュメントのデータソースとしてドキュメントを使用するときに非表示オブジェクトが表示されないようにする必要があります。

ドキュメントデザイン

- カラーパレットは、一部のタイプのチャートには適用されません。
- クロステーブルの軸にディメンションが1つしか含まれていない場合、その軸からディメンションを削除することはできません。
- 変数を含む式を含む列を非表示にすることはできません。
- Google ドライブにある最近削除した Excel ファイルに基づいて、レポートを最新表示または編集してもエラーメッセージは表示されません。
- Windows Server では、SAP-icons フォントをマニュアルでインストールする必要があります。
- 無効化または削除されたカスタム要素は適切に表示されません。
- SAP Datasphere: クエリパネルとメイン > オブジェクトタブで、オブジェクトの順序が異なります。

式言語

- DocumentPath 関数と DatasourcePath 関数が、不整合なパスを返すことがあります。
- 時間ディメンション関数は翻訳されません。
- SAP Datasphere の関数 Connection、DataProviderType、QuerySummary によって不適切な値が返されます。
- SAP Datasphere ビューのオブジェクトが更新された場合、QuerySummary は更新されません。

データソースとしての Web Intelligence

- HANA ビューに基づく別の Web Intelligence ドキュメントを使用してドキュメントを最新表示したときに、**最新表示時にデータを最新の状態に維持**オプションが有効になっていると、HANA 変数の動的デフォルト値は評価されません。
- 複数のデータプロバイダを含む別の Web Intelligence ドキュメントを使用してドキュメントを最新表示したときに、**最新表示時にデータを最新の状態に維持**オプションが有効になっていると、表示されるプロンプトの並べ替え順序がドキュメントソースの並べ替え順序と異なります。
- キー日付を含む UNV ユニバースに基づく別の Web Intelligence ドキュメントを使用してドキュメントを最新表示したときに、**最新表示時にデータを最新の状態に維持**オプションが有効になっていると、データは取得されません。
- **最新表示時にデータを最新の状態に維持**オプションを有効にして別の Web Intelligence ドキュメントを使用してドキュメントを最新表示したときに、クエリパネルでメジャー変数または地理ディメンションが結果オブジェクトとして使用されると、エラーが発生します。
- Web Intelligence をデータソースとして使用するとき、ソースドキュメントがまだ開いていると、Web Intelligence を使用するレポートは最新表示時に新しいデータで更新されません。
- 別の Web Intelligence ドキュメントを使用してドキュメントを最新表示するとき、時間ディメンションオブジェクトのデータが正しくありません。

ハイパーリンクおよび URL

- ハイパーリンクダイアログボックスで、エスケープ文字を含む URL を解析すると、これらの文字が解釈された値に変換されます。
- CMC で URL を承認した後、それを使用してドキュメントを変更するか、Web Intelligence で有効にするために Web Intelligence のキャッシュをクリーンアップする必要があります。
- ドキュメントのクエリが許可されていない OData URL に基づいている場合、ドキュメント全体の最新表示は失敗し、その他のクエリは最新表示されません。
- ハイパーリンクダイアログボックスに URL を追加すると、セルの式が無効になることがあります。
- 優先表示ロケールがドイツ語 (スイス) で設定されている場合、数値がハイパーリンクで適切に表示されません。

Web Intelligence リッチクライアント

- Microsoft Active Directory シングルサインオン認証では、最後のログイン情報は認証情報フィールドに保持され、ログインを許可するためにクリアされる必要があります。

スケジュール/公開

- OAuth が適切に設定されていない場合は、Web Intelligence スケジュールで Microsoft Drive の出力先が "不明な出力先" として表示されます。
- Web Intelligence レポートの履歴ステータスまたはインスタンス詳細に、すべてのイベントまたは任意のイベントの選択は表示されません。

3.4 インフォメーションデザインツール

インフォメーションデザインツール

- 基本設定が変更された場合でも、BI プラットフォームリポジトリからユニバースを取得すると、名前が正しくなりません。

セマンティックレイヤ SDK

- ユニバースの変換後、除外結合の一覧が空になり、データファンデーションを保存できません。
- 中立結合が許可されていない場合、含まれる結合と除外結合の一覧は整合していません。

- 名前に引用符を含む接続のショートカットを作成できません。

3.5 SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP

【階層を無視】が階層変数でサポートされない

SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) で階層変数の並べ替えを適用すると、Analysis edition for OLAP ワークスペースで【階層を無視】がサポートされなくなります。

【階層を無視】の適用後、クロstabでドリルアップおよびドリルダウンがサポートされない

任意のディメンションまたはメジャーに【階層を無視】を適用すると、クロstabでドリルアップおよびドリルダウン機能がサポートされなくなります。

SAP BW に通貨メジャーがない場合、通貨換算がサポートされない

SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) クエリに通貨メジャーがない場合、Analysis edition for OLAP ワークスペースでは通貨換算が SAP BW によりサポートされません。

【階層を無視】を適用すると、合計の非表示が機能しない

【階層を無視】を適用している場合、ディメンションまたはメジャーの合計を非表示にしても、合計の非表示機能が動作しません。

キーからテキストへのメンバー名の変更は HANA HTTP でサポートされない

Analysis edition for OLAP ワークスペースでは、キーからテキストへのメンバー名の変更は HANA HTTP データ接続でサポートされていません。

テナントで設定された **OLAP HANA 2.0** 接続に対してシングルサインオンがサポートされない

シングルサインオンがサポートされるのは、OLAP HANA 2.0 接続がホスト名やポートなどのデータソースで設定されている場合のみです。

3.6 SAP Crystal Reports 2020

新しい **Crystal Reports 2020 Fiori Viewer (4.3 SP03+)** の使用に関するヒントと既知の問題

SAP ノート [3240950](#)  を参照してください。

新しい **Crystal Reports 2020 リレーショナルユニバース (Unx) ドライバ (4.3 SP04+)** の使用に関するヒントと既知の問題

SAP ノート [3371775](#)  を参照してください。

HTTP 動的画像で [ボックスに合わせる] がサポートされない

表示メソッド [ボックスに合わせる] は、SP03 の DB (BLOB) 動的画像でのみ使用可能です。HTTP 動的画像ではまだ使用できません。

3.7 SAP Crystal Reports Viewer 2020

64 ビットの Crystal Reports Viewer 2020 に関する問題

既知の問題とその現在のステータスの一覧は、[2918604](#)  を参照してください。

3.8 SAP Crystal Reports for Enterprise

Crystal Reports for Enterprise の DNS なしの ODBC 接続

Crystal Reports for Enterprise 4.3 で DNS なしの ODBC 接続を作成する場合、関連するドロップダウンリストは機能しません。ODBC アドミニストレーターツールで正確なドライバ名を検索し、ドライバ名にマニュアルで入力します。詳細については、*Crystal Reports for Enterprise* ユーザガイドの *DSN なしの ODBC データの接続の節* を参照してください。

ウォーターフォールサンプルレポートは最新表示不可

ウォーターフォールサンプルレポートを最新表示することはできません。このサンプルを最新表示せずに表示しても、問題ありません。

64 ビットの Crystal Reports for Enterprise に関する問題

既知の問題とその現在のステータスの一覧は、[2918549](#)  を参照してください。

Oracle ODBC Direct to Data (D2D) は完全には機能しない

必要に応じて、Oracle OCI または JDBC を使用します。

3.9 Microsoft SharePoint ソフトウェア統合オプション

SharePoint でのパスワードの変更 (BW および Enterprise)

- SharePoint サイトのパスワード (Enterprise) を SharePoint サイトの [\[基本設定\]](#) ページで変更すると、クラッシュし、SharePoint サイトがメンテナンス中であると表示されます。
- [\[ログオン\]](#) ページでパスワードを変更すると、例外が表示される場合があります。ただし、BI プラットフォームにはログインできません。

→ ヒント

ブラウザキャッシュをクリアし、パスワードの変更を再試行します。

CR/CR4E インスタンスを mHtml 形式で開く

スケジュールされた Crystal Reports または Crystal Reports for Enterprise インスタンスを mHtml 形式で初めて開くと、例外が発生してダウンロードが失敗します。詳細については、[2912619](#)  を参照してください。

4 制限

4.1 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム

SAP BusinessObjects Design Studio 1.x に関連する制限事項


SAP BusinessObjects Design Studio 1.6 SP07 は、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 SP06 以前のバージョンとのみ互換性があります。詳細については、[SAP BusinessObjects Design Studio 1.6 製品出荷マトリクス](#)  を参照してください。

トランスレーションマネジメントツール (TMT) ユーザインタフェースにおける Excel のエクスポートおよびインポート機能に関する制限事項

Microsoft Excel (.xls ファイル) のエクスポートおよびインポート機能は、TMT ユーザインタフェースではなく TMT SDK の一部として実装されています。

MetaspaceSize に関する制限

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 サポートパッケージ 02 では、Adaptive Processing Server、WACS 関連の Java プロセス内での不要なガーベジコレクションとフルガーベジコレクションを防ぎ、初期化のエクスペリエンスを改善するために、新しいパラメータ `MetaspaceSize` が導入されました。

アップグレード/パッチ適用シナリオでは、このパラメータはデフォルトで APS (WACS サーバ) に追加されません。詳細については、この SAP ノート [3125747](#)  を参照してください。

BI Administrators のコックピットに関する制限事項

- BI Administrators のコックピットは [アプリケーション] タブに表示されます。[アプリケーション] タブ内から BI 管理者のコックピットに関する設定を行うことはできません。ただし、現在、これは単なるプレースホルダです。
- Firefox に関する問題が原因で、Tomcat で双方向 SSL を有効にし、かつ WACS で信用できる認証を有効にした場合に、BI 管理者のコックピットページを表示しようとすると、「内部エラー」メッセージが返されます。

BI Administrators のコックピットの REST SDK に関する制限事項

- ユニバース (UNX) 上に作成された Lumira ドキュメントは統計から除外されます。
UNX タイプのユニバース上に Lumira ドキュメントを作成しても、Lumira ドキュメント数はそのユニバースに保存されません。たとえば、ユニバース X 上に 3 つの Web Intelligence ドキュメントを作成した場合、ユニバース X に 3 つのドキュメントが作成されていることが統計に表示されます。ただし、同じユニバース X に Lumira ドキュメントを作成した場合、ドキュメント数は 4 に増えません。
- ユニバース上に作成された情報スペースは統計から除外されます。
ユニバース上に情報スペースを作成しても、そのユニバース上の情報スペース数は変更されません。たとえば、ユニバース X 上に 3 つの Web Intelligence ドキュメントを作成した場合、ユニバース X に 3 つの情報スペースが作成されていることが統計に表示されます。ただし、同じユニバース X に情報スペースを作成した場合、情報スペース数は 4 に増えません。

SAP BI ラウンチパッドに関する制限事項

- 情報分類は、Windows プラットフォームでのみ利用可能です。
- [BI 受信ボックス] フォルダでは、[ダウンロード] ボタンを利用できません。
- テーマデザイナーアプリケーションは Tomcat および JBoss アプリケーションサーバでのみサポートされます。
- 表示する権限がない場合でも、[受信ボックス] タブおよび [アラート] タブは表示することができます。ただし、これらのタブは無効になっており、何のアクションも実行できません。
- Web Intelligence および Lumira ドキュメントを除き、OpenDocument URL はクラシックビューアで開きます。
- 一度に 100 個のオブジェクトのみを切り取り、コピー、および貼り付けることができます。
- コラボレーションの SAP Jam 統合はサポートされていません。
- 形式の種類を XML としてスケジュールした Crystal Reports は、[スケジュール] タイルにその他のドキュメントとして一覧表示されます。これは、Crystal Reports XML ドキュメントとして、レポートの [履歴] ページに正しく表示されます。
- [繰り返し] カレンダを選択してレポートをスケジュールした場合、その繰り返しカレンダーの日付がカレンダーで強調表示されません。
- 以下のセキュリティプラグイン (認証プロバイダ) については、新しい更新はありません。
 - Oracle E-Business Suite (Oracle EBS)
 - JD Edwards EnterpriseOne
 - PeopleSoft Enterprise
 - Siebel Web クライアント/ツール/ビジネスアプリケーション詳細については、[2776738](#) を参照してください。
- Integration Option for Microsoft SharePoint の場合、特定のコンテンツ固有の Web パーツが非推奨になっています。非推奨のビューアは次のとおりです。
 - Crystal レポートビューア
 - Xcelsius ビューア
 - アナリティカルレポートビューア
- SAP BI 4.2 でユーザが行った一部の設定については、4.3 へのアップグレード後にページ基本設定の UI と値が変更されたため保持されません。たとえば、ランディングページのユーザ設定がランディングフィルタのい

いずれかの値と組み合わせられて [ホーム] となっている場合、アップグレード後は、ランディンググループとして [最近使用したドキュメント] のある [カスタムグループ] となります。これは、CMC (ユーザグループ Fiori 基本設定) および BI ラウンチパッドに適用できます。

- 出力先のいずれかが失敗した場合、再試行オプションは複数出力先では動作しません。

ウィルススキャンインタフェースに関する制限事項

ウィルススキャンインタフェース (VSI) は Solaris ではサポートされていません。Solaris OS に SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームをインストールして VSI を有効にした場合、ファイルはウィルスに対してスキャンされません。

BI Commentary に関する制限事項

接尾辞付きの 10 個の余分な権限 (BI Commentary 所有者権限) がシステムによって自動的に生成されます。これらは現在何の意味も持たないため、無視してください。

動的受信者が存在するパブリケーションに関連する制限事項

100000 を超える動的受信者が存在するパブリケーションを扱う場合、パブリケーションのパフォーマンスが低下する可能性があります。つまり、100000 を超える動的受信者が存在するパブリケーションを扱う場合、複数スコープバッチは生成されません。これが原因で、パブリケーションパフォーマンスが低下する可能性があります。

回避策: 動的受信者数の上限を減らしてみてください。

CMS (セントラル管理システム) DB ドライバに関する制限事項

- インフォメーションデザインツールでは、CMS DB ドライバを使用した新しいリレーショナル接続の作成時に、[ビジネスオブジェクト認証マップ](#) 認証モードがサポートされません。
- クエリの実行時に、CMS DB ドライバでは以下の演算子がサポートされません。
 - Both
 - Except
 - Between
 - Not Between
- 技術的なクエリによって、プロパティレベル、パス、プロパティバッグかどうかなど、さまざまなプロパティの技術値 (名前と値を除く) を検索することができます。これは新機能であり、現在、Web Intelligence およびインフォメーションデザインツールでのみサポートされています。
- リレーションシップオブジェクトに適用されている[クエリフィルタ](#)は、CMS DB ドライバではサポートされません。

セントラル管理コンソールと BI InfoView でのページ付けに関する制約

特定のユーザに対し、一部のオブジェクトでセキュリティの表示権限が拒否された場合、セントラル管理コンソール (CMC) と BI InfoView の InfoObject 一覧に表示される総ページ数/総ページ番号の値が正しく表示されません。

InfoObject の一部 (100 件超) に対する表示権限が拒否された後、[フォルダ] 一覧に移動した場合、総ページ数が正しく表示されません。最終ページに移動すると、ページ番号が正しく表示されます。

解決策の一環として、ページ番号は以下のように表示されます。

- 1 ページ目が表示されている場合は 1/1+、5 ページ目が表示されている場合は 5/5+ など
- また、総ページ数は 1 ページ目が表示されている場合は 50+ (ページサイズが 50 の場合)、2 ページ目が表示されている場合は 100+ などと表示されます。

セキュリティに関する制限事項

- LDAP 認証の設定時に SSL 認証をサーバまたは相互として選択した場合、BI プラットフォームでは、LDAP サーバとの通信に TLS v1.2 セキュアプロトコルがサポートされます。

① 注記

BI プラットフォームが Linux にインストールされている場合は、LDAP サーバとの通信に TLS v1.0 がサポートされます。

- Solaris マシンの SIA で SSL を有効にすると、CMS がクラッシュします。

① 注記

Solaris マシンで作業している間は、CMS のクラッシュを防ぐため、SSL を無効にします。詳細については、[2426551](#) を参照してください。

- SAML のサービスプロバイダの実装は Tomcat、WebSphere、および JBoss アプリケーションサーバに対してのみサポートされています。
- SAML の実装は、BIP シンククライアント (BI ラウンチパッド、セントラル管理コンソール、および OpenDocument) でサポートされています。

プロモーション管理に関する制限事項

[[フェデレーションジョブ関係を含める](#)] オプションを選択せずにフォルダで複数のフェデレーションオブジェクトを昇格すると、選択したフォルダでフェデレーションアイコンが表示されません。フェデレーションアイコンが表示されるようにするには、[[フェデレーションジョブ関係を含める](#)] オプションをオンにします。

ワークフローアシスタントに関する制限事項

- 旧バージョンの任意の BI プラットフォームから 4.3 パッチにアップグレードする際に、ワークフローアシスタントフォルダが表示されない場合は、[2882649](#) を参照してください。
- AIX および Solaris プラットフォームの場合、4.2 SP05 以降のバージョンに BI 4.3 バージョンをインストールすると、デフォルトでワークフローアシスタントがインストールされます。ただし、バックエンドサービスを取得するには、修復が必要です。
- ワークフローアシスタントは、SAP NetWeaver 7.5 SP05 と、BI プラットフォームのインストールパッケージまたはサポートパッケージにバンドルされている Tomcat でのみデプロイすることができます。この Web アプリケーションをデフォルトのデプロイメントオプションでデプロイする必要があります。アプリケーションサーバのカスタム設定を選択しないでください。
- ワークフローアシスタントは、Microsoft Edge、Internet Explorer 11、Mozilla Firefox 68.x、および Google Chrome でのみサポートされています。
- プロモーション管理シナリオでは、ランドスケープ、シナリオ、ワークフローテンプレート、タスクテンプレート、エージェントオブジェクトはサポートされません。
- ワークフローアシスタントでシステムを追加する場合、以下の 3 つの認証の種類のみがサポートされます。
 - Enterprise
 - LDAP
 - Windows AD
- ワークフローアシスタントでシステムを追加する場合、どの認証の種類についても SSO はサポートされません。
- アプリケーションの権限の管理: 適切なアプリケーション固有の権限がある場合、ワークフローアシスタントで特定のタスクを拒否または実行することができます。ただし、必要に応じて、シナリオ表示権限とランドスケープ表示権限を拒否することができます。これは、下記の項目に個別の権限がないためです。また、カスタム権限は以下のいずれについても使用できません。
 - すべての組合せに対するシナリオ停止
 - 結果の表示、履歴の表示、および結果のダウンロード
 - ランドスケープでのユーザ認証情報の変更/表示

SAML 2.0 認証に関連する制限事項




- BI 4.2 SP06 以降では、WebSphere における BI プラットフォームの SAML サポートは、websphere9 上でのみ機能します。
- JBoss アプリケーションサーバを介する RESTful Web サービスの SAML サポートは、JBoss EAP 7.1 でのみ使用できます。
- BI プラットフォームに Java Web アプリケーションを含むカスタムインストールと BOE デプロイメントでのみ使用される WACS サーバがある場合でも、新しい Tomcat フォルダ jar がインストールされます。
`<BOE_INSTALL_DIR>%tomcat%webapps%BOE%WEB-INF%lib`
`<BOE_INSTALL_DIR>%tomcat%webapps%biprws%WEB-INF%lib`
Tomcat のインスタンスはインストールされず、パスと jar ファイルのみがインストールされます。
- BI プラットフォームに BOE デプロイメント専用の Java Web アプリケーションを含むカスタムインストールがある場合でも、すべての SAML jar ファイルを含む新しい Tomcat フォルダがインストールされます。
`<BOE_INSTALL_DIR>%tomcat%webapps%BOE%WEB-INF%lib`
`<BOE_INSTALL_DIR>%tomcat%webapps%biprws%WEB-INF%lib`

Tomcat のインスタンスはインストールされず、パスと jar ファイルのみがインストールされます。

BI ワークスペースに関する制限事項

- BI ラウンチパッドの BI ワークスペースでは、次のモジュールがサポートされません。
 - コラレーションフィード
 - マイアプリケーション
 - SAP StreamWork フィード
- BI 4.2 や BI 4.1 などの以前のバージョンの BI で作成された BI ワークスペース (カスタムレイアウトあり) は、BI 4.3 で開くと、[自由形式](#)レイアウトで開きます。
- BI ワークスペースが BI 4.2 または BI 4.1 で作成されており、サポートされていないモジュールが含まれる場合、サポートされていないモジュールは、BI ワークスペースの保存時に削除されます。
- BI ワークスペースでは、グループモジュール、BI ラウンチパッドモジュール、ドキュメントエクスプローラモジュールはサポートされていません。

BI 4.3 WebLogic 12C アプリケーションサーバのデプロイメントに関する制限事項

- セントラル管理コンソールのデプロイメントは、Oracle Weblogic 12C アプリケーションサーバではサポートされていません。詳細については、[2900108](#)  を参照してください。
- BI ラウンチパッドアプリケーションで変数がある SAP BW クエリに基づく Crystal レポートを表示する場合、プロンプトダイアログがポップアップできません。詳細については、[2900993](#)  を参照してください。
- クライアント API アプリケーションのデプロイメントは、Oracle Weblogic 12C アプリケーションサーバではサポートされていません。詳細については、[2900673](#)  を参照してください。

4.2 SAP BusinessObjects Live Office

Live Office での Web Intelligence コメント

- Web Intelligence セルに対する Excel セルのコメントにある 'LiveOffice_ID' 行は削除も編集もしないでください。
- Web Intelligence のチャートのコメントは、サポートされていません。

Live Office での Web Intelligence のテーブルまたはセルの画像でのエクスポート

- Web Intelligence のページヘッダまたはフッタを取得する場合、その背景画像が単一の画像としてインポートされます。

Live Office での .Net Framework のサポート

- .NET Framework 4 と .NET Framework 3.5 が同期して有効化される場合、Live Office は機能しません。詳細については、SAP ノート [2715292](#) を参照してください。

4.3 SAP BusinessObjects BI プラットフォーム SDK

RESTful Web サービスに関する制限事項

- パーソナライゼーションがサポートされません。
パブリケーションでは、Enterprise 受信者および動的受信者に対してパーソナライゼーションがサポートされません。
- フィルタ処理がサポートされません。
パブリケーションでは、動的受信者に対してフィルタ処理がサポートされません。
- 出力形式の基本設定がサポートされません。
パブリケーションでは、利用可能なすべての形式の種類について、出力形式の基本設定がサポートされません。
- REST API がスケジュール用にカレンダー日付 (http://<baseURL>/v1/calendars/<calendar_ID>/dates) を取得するため、定期的なカレンダーに対して想定される動作が表示されません。

トランスレーションマネジメントツール (TMT) SDK に関する制限事項

- 同じロケールが 'N' 回追加された場合、TMT SDK は例外をスローしません。
TMT SDK では、例外をスローせずに、ユーザが同じロケールを 'N' 回追加すること、およびそのロケールを 'N' 回出力することを許可します。
- 利用可能なロケールに含まれていないロケールをユーザが削除しようとした場合、TMT SDK は例外をスローしません。
利用可能なロケールに含まれていないロケールを削除しようとしても、例外はスローされません。
たとえば、以下の利用可能なロケールの一覧があるとします。
 - フランス語
 - アラビア語

- ロシア語
- 日本語

ここでイタリア語ロケールを削除しようとしても、TMT SDK からは例外がスローされません。

4.4 データアクセス

SAP Data Warehouse Cloud

接続パスワードに特殊文字を使用することは避けてください。一部の組み合わせは機能しません。インフォメーションデザインツールを使用して接続をテストすると、解析エラー "一般的なエラー;1033 エラー (プロトコル解析中)" が発生します。

4.5 SAP BusinessObjects Web Intelligence

データモード

- 多次元データセットに変換を適用し、階層をキーとして使用してキューブを組み合わせることはできません。
- 変換されたキューブと結合キューブは、共有要素ではサポートされていません。
- [\[データ\]](#) モードでは、依頼メジャーはサポートされません。

Web Intelligence デプロイメント

Web Intelligence デプロイメントに Adaptive Processing Server を追加する場合は、追加されるインスタンスに Commentary サービスが含まれていないことを確認してください。

Query as a Web Service & Document as a Web Service

Query as a Web Service & Document as a Web Service は、新しいソースとしてのドキュメント機能 (4.3 SPO) で置き換えられました。この機能を使用すると、既存の SAP BusinessObjects Web Intelligence ドキュメントに対してクエリを作成することができます。詳細については、[Web Intelligence ドキュメントでのクエリの作成](#)を参照してください。

- Query as a Web Service Designer は、SAP BusinessObjects BI クライアントツールのインストールで提供されなくなりました。

- Document as a Web Service 機能は、SAP BusinessObjects Web Intelligence リッチクライアントから削除されました。
- どちらも、SAP BusinessObjects Web Intelligence でクエリを作成するためのデータソースとして使用できなくなりました。

4.3 SP2 では、別の BOE サーバから Web Intelligence OData Web サービスに基づく Web Intelligence データプロバイダを作成できます。詳細については、[Web Intelligence ドキュメント](#)を参照してください。既存の Query as a Web Service & Document as a Web Service を使用する場合は、SAP BusinessObjects RESTful Web サービス SDK を活用できます。[Web Intelligence および BI セマンティックレイヤ向け SAP BusinessObjects RESTful Web サービス SDK ユーザガイド](#)を参照してください。

テキスト、Excel、SQL 文の直接入力、Google スプレッドシート、OData データソース

以下のクエリ機能は、テキスト、Excel、SQL 文の直接入力、Google スプレッドシート、および OData データソースではまだサポートされていません。

- 複合クエリ
- フィルタを定義するときのオブジェクトの値の一覧とサブクエリ。定数およびプロンプトのみがサポートされています。
- クエリストリッピング

Web Intelligence リッチクライアント

- リッチクライアントと BIP サーバを同じマシンにインストールすることはできません。
- サンプルはオンラインモードでのみ最新表示できます。
- オフラインモードでのユニバース (.UNV および .UNX) に基づくドキュメントの作成は、ローカルユニバースでのみ可能です。
- ユニバースのインポートはサポートされていません。
- 完全な URL パスが指定されていない相対的な OpenDocument リンクは、サポートされていません。
- 次の機能は、スタンドアロンモードの Web Intelligence リッチクライアントでは動作しません。
 - プロンプトバリエーション
 - コメント
 - 共有要素
 - CMS へのドキュメントの公開
 - 結果として、Web Intelligence リッチクライアントのポータルページの [\[インポート\]](#) タイル、および [\[保存\]](#) ボタンメニューの [\[BI プラットフォームリポジトリに公開\]](#) オプションは表示されません。

地理マップ

- 階層は地理修飾することができません。
- Crystal Reports と Web Intelligence のデフォルトの地図で使用されている国境は、サードパーティサービスプロバイダが提供するデータを使用して生成されます。現地の法律や規則により、地図の使用または表示 (もしくはその両方) に関連する現地のコンプライアンス要件または制約が定められている可能性があります。Crystal Reports と Web Intelligence のデフォルト地図が現地の法律や規則の要件を満たしているかどうかを、地図を使用する前に評価してください。満たしていない地図は、使用しないでください。

Commentary

- クライアントアプリケーションとサーバアプリケーションが同じマシンにインストールされている場合、コメントを挿入することはできません。以下のエラーが生成されます。コメントを挿入することができません (WIS 00074)
回避策: 監査データベースでは ODBC 接続で使い、リッチクライアントでは 32 ビットソフトウェアを使用します。クライアント/サーバを 64 ビット OS にインストールする場合、64 ビットおよび 32 ビットでまったく同じ ODBC 接続を作成する必要があります。
 1. [セントラル管理コンソール] に移動します。
 2. アプリケーション をクリックして、どの ODBC 接続が BI Commentary サービスに使用されているかを確認します。
 3. BI Commentary サービスに監査データベースまたは他のデータベースが使用されているかを確認します。
他のデータベースが使用されている場合、commentary パラメータページに示されているデータベース接続の名称をメモします。
 4. BI Commentary サービスに監査データベースが使用されている場合、[セントラル管理コンソール] のメインメニューで [監査] をクリックして、パラメータにアクセスします。デフォルトで、接続名は BI4_Audit_DSN になっています。
 5. [コントロール パネル] から 64 ビット ODBC マネージャを実行します。
 6. データベースの ODBC 接続パラメータをコピーします (名称、ホスト名、など)。
 7. <WINDOWS_INSTALL_DIR>%sysWOW64%odbcad32.exe を実行します。
 8. まったく同じ接続名とパラメータを使用して、64 ビット接続を 32 ビットに複製します。
- コンテキストコメントは実装されていません。プロンプト値を変更しても、コメントは変わらずに表示されます。
- リッチクライアントおよびクライアントと BI プラットフォーム間の HTTP 接続の使用時はコメントを使用できません。Commentary サービスは使用できません。

分析ビューを利用できない

Analysis, edition for OLAP で構築され SAP HANA ビューに基づいている Analysis, edition for OLAP クエリは、Web Intelligence でサポートされておらず、エラーが生成されます。

ソースを変更するとプロンプトの手動エントリが複数値として維持される

複数値パラメータが含まれるオブジェクトのソースを、間隔パラメータが含まれるソースに変更した場合、新しいプロンプトは引き続き複数値として表示されます。

動的デフォルト値に基づく **BEx** 変数がオーサリング **BEx UNX** ユニバースで機能しない

最新表示時に [クエリパネル] で動的デフォルト変数が更新されていません。

ライフサイクルマネジメントまたはプロモーション管理での昇格時の新しいセキュリティ権限のデフォルト値

ライフサイクルマネジメントまたはプロモーション管理を使用して、以前の SAP BI 4.x リリースから SAP BI 4.3 リポジトリへコンテンツを移動する場合、新しいセキュリティ権限 ("クエリ: SQL の直接入力編集"、"クエリ: SQL の直接入力表示") はデフォルトでは拒否され、以前の "クエリスクリプト - 編集の有効化 (SQL、MDX...)" または "クエリスクリプト - 表示の有効化 (SQL、MDX...)" セキュリティ権限からは設定されません。

Web Intelligence の無効でまだサポートされていないセキュリティ権限

セントラル管理コンソールでは、Web Intelligence でもう適用できなくなったセキュリティ権限も引き続き表示されます。これらは、"Obsolete_" プレフィックスで識別することができます。セキュリティ右の [左枠 - ドキュメントの概要の有効化] も無効ですが、"Obsolete_" タグのプレフィックスはありません。

その他の一部のセキュリティ権限は表示されますが、カバーされる機能はまだ実装されていません。

- デスクトップ: ローカルデータプロバイダを有効にする
- デスクトップ: ドキュメントの印刷
- デスクトップ: メールによる送信

レポート要素のサイズ変更

- モバイルデバイスとタッチデバイスはサポートされません。
- ユーザ設定またはキーボードを使用してレポートブロックのサイズを変更することはできません。
- クロステーブルのサイズを変更することはできません (ハンドルが表示されません)。

レポート要素の移動

- モバイルデバイスでは、なげなわツールによる選択はサポートされません。
- レポート要素の移動は、[デザイン/構造] モードでのみ可能です。
- レポート要素をレポート余白に移動することはできません。
- モバイルデバイスでは、複数のレポート要素の選択はサポートされません。

4.6 インフォメーションデザインツール

ユニバース

クエリパネルプロンプトでの列ヘッダ

列ヘッダを翻訳することはできません

クエリパネルでの期間

値のクエリパネル一覧またはプロンプトダイアログに表示される期間は、実際にメンバーシップが含まれている期間である必要があります。ただし、常にベース期間ではない期間番号 1 から開始され、最後の構築期間で終了します。間隔があってもそれは考慮されず、最初の期間と最後の構築期間の間の非構築期間が表示されます。

セキュリティエディタ

CMS セッションを閉じて、セキュリティエディタ、[プロジェクト同期] パネル、および [リポジトリリソース] パネルで何らかの操作を実行すると、エラーが発生する場合があります。

Microsoft SQL Server Analysis Service 接続

Microsoft SQL Server Analysis Service 接続でアクティビティがないとタイムアウトになる可能性があります。

BICS を使用した BW オーサリングユニバース

特性に設定されているプレゼンテーション定義は、変数設定の値の一覧で変数が表示されているときには保持されません。

Adaptive Processing Server のエラーメッセージ

Adaptive Processing Server (APS) によってホストされるマテリアライゼーションサービスが返すエラーはローカライズされません。

複数ソースユニバース

BW 接続カタログ名の変更

BW 接続のカタログ名を変更した場合は、この接続に基づきデータファンデーションを再編集して保存し、その後ユニバースを再公開する必要があります。

ストアードプロシージャユニバース

ストアードプロシージャユニバースのサポート

ストアードプロシージャユニバースは、SAP BusinessObjects Dashboards、SAP BusinessObjects Live Office、SAP Crystal Reports 2016、SAP Design Studio、SAP Lumira ではサポートされません。

'現在日付' は使用できない

ストアードプロシージャで現在日付を使用する値が使用されている場合、そのストアードプロシージャは、本質的に現在日付を使用するパラメータを含めることができないため無効になります。この種類のアクションはサポートされていません。

リンクされたユニバースはサポートされない

ストアードプロシージャにリンクされたユニバースを作成できますが、サポートされません。

ストアードプロシージャテーブルでの整合性チェック

ストアードプロシージャテーブルでの整合性チェックを実行すると、予期しないエラーメッセージが表示される場合があります。

セット

CMC: セットコンテナのスケジュール

単一のセットまたは単一のセットグループのみスケジュールできます。

クエリパネルのプロンプト: 列ヘッダは翻訳できない

クエリパネルでの期間: 値の一覧またはプロンプトダイアログに表示される期間は、実際にメンバーシップが含まれている期間の必要があります。ただし、常にベース期間ではない期間番号 1 から開始され、最後の構築期間で終了します。間隔があってもそれは考慮されず、最初の期間と最後の構築期間の間の非構築期間が表示されます。

Unicode 値を含むサブジェクト

Microsoft SQL Server の場合、UNICODE_STRINGS ユニバースプロパティが Yes に設定されている場合は、Unicode 文字を含むテーブル列に基づいたサブジェクトに基づいてセットを構築できません。Unicode 文字を含まないようにサブジェクト名を編集できます。

スコアリング

スコアリングは、ステップベースで適用されるため、期間ベースの時系列セットには適していません。

ビジュアルデータステップ: 日付型オブジェクトのカスタム値はサポートされない。

提案されたデータ形式を使用します。

ビジュアルデータステップ: 数値型のカスタム値

ビジュアルデータステップエディタで、数値型のカスタム値には整数のみを使用します。

ビジュアルデータステップ: メジャーは、セット内で最後のステップ位置にある必要があります。

メジャーベースのステップを追加した後は、(メジャーベースのステップでない限り) さらにステップを追加することはできません。

ビジュアルデータステップ: **1**つのメジャーのみ使用可能

メジャーの追加は、1つのメジャーのみに制限されるようになりました。このメジャーの後にオブジェクトは許可されません。

クエリパネルステップ: 互換性のないオブジェクトはサポートされない。

クエリは、セット内の他のステップと互換性のあるオブジェクトで構成されるようにします。

直接入力カスタム SQL

カスタム SQL を使用してセットを作成する場合、カスタム SQL select の項目/結果オブジェクトに、サブジェクトキーの数に応じて、エイリアス "as id" や "as id1" が割り当てられることを確認してください。

サンプルコード

```
SELECT DISTINCT
  customer_id as id
FROM
  "sets"."customer_data"
```

データベースの変更

[[セットコンテナの管理](#)] の [[データベース](#)] タブで変更を加えても、クライアントマシンでセットエディタが開きません。その場合は、変更の実行後に、エディタを閉じて再度開きます。


テーブルの名前変更

既存のテーブルにデータが存在せず、ターゲットテーブルが存在しないか空の場合は、テーブルの名前を変更できます。

- テーブルにデータが含まれている場合、ユーザはすべてのテーブルの名前変更を強制されます。
- 既存の空のテーブルの名前をデータが含まれるテーブルに変更する場合は、すべてのテーブルの名前を変更する必要があります。
- ユーザは、名前が変更されたすべてのテーブル間でデータ整合性が維持されていることを確認する必要があります。

4.7 SAP BusinessObjects Mobile サーバ

JBOSS EAP 6.2 でモバイルサーバにログオンするとさまざまなエラーが発生する

JBOSS EAP 6.2 でモバイルサーバにログオンしようとする、さまざまなエラーが発生することがあります。詳細については、SAP ノート [2207211](#)  を参照してください。

4.8 SAP Crystal Reports 2020

64 ビットのユーザ機能ライブラリ (UFL)

SAP Crystal Reports 2020 および BI プラットフォーム 4.3 では、64 ビットの .NET および COM UFL が必要です。

非推奨コネクタ

64 ビットの Crystal Reports でサポートされなくなったコネクタ (DAO、xBASE、一般的なクライアント (crdb_p2bdrv) など) については、可能な場合、64 ビットの ODBC / JDBC が使用されます。

Crystal Reports Salesforce.com ドライバ (OEM) は、2023 年 12 月から OEM ベンダによってサポートされなくなったため、BI 4.3 SP04 から削除されます。可能な場合は、代替の ODBC/JDBC ドライバを使用することを検討してください。

地理マップ

- **マップタイプ:** "ドット密度" タイプおよび "等級表示" タイプはサポートされていません。
- **マップナビゲータ** はサポートされていません。
- Crystal Reports と Web Intelligence のデフォルトの地図で使用されている国境は、サードパーティサービスプロバイダが提供するデータを使用して生成されます。現地の法律や規則により、地図の使用または表示 (もしくはその両方) に関連する現地のコンプライアンス要件または制約が定められている可能性があります。Crystal Reports と Web Intelligence のデフォルト地図が現地の法律や規則の要件を満たしているかどうかを、地図を使用する前に評価してください。満たしていない地図は、使用しないでください。

Linux/UNIX サポートの廃止

BI 4.3 SP02 以降、SAP Crystal Reports 2020 サービスは Linux および UNIX オペレーティングシステムでサポートされなくなりました。SAP Crystal Reports 2020 サービスは、引き続き Windows サーバにデプロイし、Linux/Unix BI プラットフォームと連携することができます。詳細については、[このブログ投稿](#) を参照してください。

異機種間 (Linux や Windows など) のデプロイメントでは、SAP SNC に新しいレジストリが必要です。詳細については、SAP ノート [3269556](#) を参照してください。

Windows 11 での一時 OLE (ピクチャ) の問題

問題の詳細と解決方法については、SAP ノート [3204578](#) を参照してください。

32 ビット Crystal Reports .NET ランタイムのサポート終了予定

32 ビット Crystal Reports .NET ランタイム (32 ビット BI プラットフォーム .NET ランタイムの一部として) は、SAP BI 2025 で削除される予定です。アプリケーションで 32 ビット .NET ランタイムがまだ使用されている場合は、64 ビットに移行してください。

4.9 SAP Crystal Reports for Enterprise

ストアドプロシージャユニバースに関連する問題

SAP Crystal Reports for Enterprise では、ストアドプロシージャが含まれているユニバースはサポートされていません。レポートを作成する場合に、データが取得されません。

OData 上の SAP Crystal Reports for Enterprise に関する問題

テーブル結合はサポートされていません。

4.10 Microsoft SharePoint ソフトウェア統合オプション



SharePoint での パスワードの変更 (BW)

BW パスワード変更は SharePoint ではサポートされていません。

重要免責事項および法的情報

ハイパーリンク

リンクの一部は、アイコンやマウスオーバーテキストで分類されています。これらのリンクから、追加の情報を得ることができます。アイコンについて。

-  このアイコンが付いたリンク: SAP がホストしているものではない Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り) 以下のことに同意することになります。
 - リンク先のサイトのコンテンツが SAP のドキュメンテーションではないこと。お客様は、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできません。
 - SAP が、リンク先のサイトのコンテンツについて同意することも反対することもなく、また SAP がその利用可能性や正確性について保証しないこと。SAP は、かかるコンテンツの使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。
-  このアイコンが付いたリンク: 当該の特定の SAP 製品又はサービスのドキュメンテーションから離れ、SAP がホストしている Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り)、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできないことに同意します。

外部プラットフォームでホストされているビデオ

一部のビデオは、サードパーティのビデオホスティングプラットフォームに置かれている場合があります。SAP では、これらのプラットフォームに保存されているビデオが将来にわたって利用できると保証することはできません。また、これらのプラットフォームにホストされている、いかなる広告またはその他のコンテンツ (関連ビデオまたは同じサイトでホストされている別のビデオに移動する場合など) については、SAP の管理外であり責任を負いません。

ベータおよびその他の試験的機能

試験的機能は、SAP が将来のリリースを保証する正式に提供される機能の範囲外です。これは、試験的機能は、SAP により通知なく理由の如何を問わず随時変更される場合があることを意味します。試験的機能は、本稼働使用のためのものではありません。お客様は、試験的機能を実際の運用環境で、又は十分なバックアップがとられていないデータとともに、デモンストレーション、テスト、試験、評価その他の方法で使用してはなりません。

試験的機能の目的は、早期にフィードバックを得ることで、それに応じて顧客の皆様やパートナーが将来の製品に影響を与えることを可能にすることです。SAP コミュニティなどにおいてフィードバックを提供することで、お客様は、投稿物や二次的著作物の知的財産権が SAP の独占的所有物であり続けることを承認することになります。

コード例

ソフトウェアのコーディングやコードスニペットはすべて、例です。それらは、本稼働使用のためのものではありません。コード例は、構文や表現規則を分かりやすく説明し視覚化することのみを目的としています。SAP は、コード例の正確性や完全性について保証しません。SAP は、コード例の使用により発生した過誤や損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、損害に対して一切責任を負いません。

偏見のない表現

SAP は、ダイバーシティ & インクルージョンの文化を支持しています。SAP の文書では、可能な限り、文化、民族性、ジェンダー、および障がいの有無を問わず、すべての人々に対する偏見を伴わない表現を採用します。

© 2024 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱漏等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE（又は SAP の関連会社）の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他のすべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する詳細の情報や通知については、<https://www.sap.com/japan/about/legal/trademark.html> をご覧ください。